

窓辺

わたなべ
渡辺

ひでひこ
英彦

麵は異なもの

富山県南西部に位置する上平村の菅沼合掌造り集落は平成七年、世界遺産に登録されている。

「焼きそばと関係あるの？」と言われそのだが、そこは男女の仲ではないが、「麵(めん)縁(縁)は異なもの」である。北陸経済研究所の調査担当の方が以前、富士宮を視察した際、焼きそば学会の取り組みに注目し、上平村整備計画の外部委員に私を推薦してくれたのである。

草^{grass}サイズの世界遺産は、訪れる者にノスタルジア(郷愁の情)を感じさせずにはおかない。司馬遼太郎も「時間が止まっている村」と記している。下手な手を加えずそっとしておきたくなるのだ。経済効果を望む安易な観光地化政策によって本質を失う羽目になることだけは避けたいという気持ちと、活性化の必要性との間で、村

民の皆さんも揺れているのもうなずける。

宿泊先の食事はアサツキ、アザミ、クグミ、スタケ、山ウド等々摘みたての山菜づくし。山の幸だけでこんなに酒がうまいとは、自然の恵みのありがたさに思わず「合掌!」。この地域で浄土真宗への信仰が厚いのも、こうした自然の恵みと無関係ではあるまい。

ところで、活性化策は? 本来、提案に赴いたはずが、自分自身が癒やされてしまい、「此処はあまり人に教えたくない」(教えているが)などというシレンマに陥ってしまった。

「もう俺は親鸞(知らん)」と開き直ってしまいたいほどすぎな村だったが、アドバイザー役としては失格の旅となってしまった。何とも麵目(めんぼく)ない……。

(富士宮焼きそば学会長)